

【最優秀賞】

【水の恵みを未来へ】

尾張旭市立旭中学校 三年 竹内 蓮樹

「水が溜まってないからちよつと待って。」歯を磨こうとしたら母が言った。ここは、タイ・バンコク。僕が小学三年生から六年生まで暮らした街だ。水道水は飲めないで、台所にリリットルのタンク式浄水器を取り付けてもらったのだが、初めは安心のために皿洗いにもその水を使って、タンクがよく空になってしまった。その後、皿洗いなら水道水でも問題ないと知ったので、妹が乳児だった我が家では仕上げだけ浄水を使うようにした。

バンコクの水道水はJICAの協力で設立されたバンケン浄水場で作られる。その工程を四年生の校外学習で見学した。茶色く濁ったチャオプラヤー川の水が、日本の高い技術を使った沈殿池やろ過池等を通して安全な水へ生まれ変わる。ところが、水道管や貯水槽の老朽化が原因で不純物や細菌等が混ざってしまう。これが水道水が飲めない理由だ。

配管の問題といえ、タイでは下水管が細いので、トイレにペーパーを流すことができない。また、雨季には同じ配管を通る下水と雨水の排水が追いつかなくなり、路面の冠水がよく起こる。さらに汚水は川や海にも流れこみ、水質汚染も引き起こしている。

海の汚染の原因はそれだけではない。六年生の時、タイではプラスチックごみによる海洋汚染が深刻だと知った。この問題を、総合の授業でSDGsの観点からクラスで調べ、海外の小中学校とオンライン交流を行った。僕は校内で行ったプラスチック回収活動について発表した。タイはプラスチック消費量は多いのに、ごみの分別習慣が根付いていない事が海洋汚染の原因になると考えたからだ。初めはあまり成果がなかったが、発表後も改善策を話し合っ、卒業まで活動を続けた。

日本へ帰国して、水道から流れる水の滑らかな感触に感動した。日本の水は、高い技術と、それをつくりあげてきた先人の絶え間ない努力によって支えられている。その技術は、まだ課題の多いタイの水道設備や、

世界の水環境が深刻な地域の発展を支えている。今も世界では六億人以上の人々が清潔な水を得られず、アフリカでは不衛生な水で命を落とすってしまった。川への水汲みに何時間もかかり学校に通えない子供が沢山いる。また、世界気象機関は、人口増加や地球温暖化による気候変動が原因で、二〇五〇年には世界で五十億人が水不足の状態に陥ると予測している。

日本は水に恵まれているので、遠い話題のように感じられるかもしれない。しかし、日本も世界の水不足や水質汚染の問題と無関係ではない。なぜなら、食料の約六十パーセントを輸入に頼る日本は、それらを生産するのに使われた水も間接的に輸入している事になるし、気候変動の原因になるCO₂は先進国から多く排出されているからだ。

僕は自分達の事として考え、行動しなければならぬ。例えば、食料自給率を上げるために地産地消を心がける事もその一つだ。僕が住む尾張旭市では、給食に地元の野菜や特産品の無花果、プチヴェールを使って地産地消に取り組んでいる。僕は、給食は残さず、おかわりを沢山して食材を無駄にしない事を毎日続けている。また、技術の授業で取り組んでいる茄子の栽培をきっかけに、家の庭に家庭菜園を作り、人参やパプリカ等を育てている。個人では微力だが、家庭菜園や地産地消が増えれば輸送時のCO₂削減に繋がる。それに家庭菜園は楽しい。水やりをして葉が元気になると、野菜一つ一つに水の命が宿っている事を実感する。妹も、収穫できたらガパオライスを作りたいと張り切っている。

僕達の生活が地球環境をつくる。人の命をつくる水、その大切な水の恵みを未来へ繋いでいくため、もっと知見を広げて行動しようと思う。そして、水を使う時は、いつも感謝を忘れず大切に使用したい。蛇口から流れる水の恵みは、決して当たり前ではないのだから。